左上：制服・私服警察官によるサウンドカーの襲撃・強奪、2名逮捕
中：アドバルーンによってかろうじて私たちの姿が見えたのだが…　右下：ハチ公前で、参加者1名とともにアドバルーンも強奪された

デモと自由と

―4月30日「自由と生存のメーデー06」への弾圧―

市邨 繁和

四月三〇日に起こった忌まわしい事態について、みなさんと共有しておきたい。

「プレカリアート（不安定雇用層）」の連携を訴えた、私たちの「自由と生存のメーデー06」の報告は別の機会に譲るとしよう。集会にはその広がりを微かに期待させる、人びとの顔が集っていた。

当日の私たちのデモには、大容量の音楽用アンプなどの音響器材を荷台に積み込んだ車両が、先導車として用意されていた。その車上からDJがその場で選曲した音楽を次々にかけ流しつつ進む、いわゆる「サウンド・デモ」は、ここ数年の間度々行われてきたが、今回のデモもそのアイデアを借りたものである。その、近年稀な「沿道から通りすがりの人びとがなだれこむ」デモのありように対する報復と言わんばかりに、その日の警察はあらんかぎりの無法ぶりを貫いて、デモの「跡形もない解体」をはかってきた。

私たちの「許可条件」に準じたサウンドカーが出発地点に登場するや、大勢の私服・制服警官がこれを取り囲み、「音を出したら逮捕」「サラ（レコード）を廻したらパクる」と、法律根拠以前の理屈すらない、警告ならざる恫喝を繰り返した。そして、私たちのデモが最低限の妥協のもと、参加者の安全を図りながらデモを開始して、五分とたたないうちに、車両の荷台に飛び込んだ警察に袋叩きにされながらDJが逮捕、騒然となった現場からさらに一人逮捕、揚げ句の果てにサウンドカーが強奪された。そして音を奪われたデモ隊が少しづつ声を取り戻し、そのシンボルとして大きなバルーンが渋谷の町にたなびきつつあったそのとき、再び警察はこれに介入、バルーンの紐を切断して強奪、そのなかで一人を逮捕した。解散地点に辿り着いたデモ隊には、参加者の肉声とヨレヨレのプラカードしかなかった。

バルーンについて興味のある方はぜひ法律書を紐解くことをおすすめするが、これをふくめて私たちの側に違法行為はいっさいない。かたや警察は、指揮官車と隊員のハンドマイクを使って「不法なデモ」などの誹謗アナウンスを連呼、デモ隊への合流・そこからの離脱の制止、女性参加者・車イスの障害者などへの暴力的で無意味な推進規制・威圧など、きりのない違法と暴力の限りをつくした。

逮捕の直後から、三人の人々を解放するための活動が開始され、カンパ・声明賛同の募集、準抗告や勾留理由開示公判など法的な対抗措置、街頭活動、披逮捕者への激励行動などを行なってきた。国外からも含めた幅広い支援を得て、四月十一日、最後の一人を解放することができた。支援の皆さんに感謝したい。

今、かつて福富節男さんが『デモと自由と好奇心を』で説かれたような、デモの自由を守るための警察権力との闘いの意義を、あらためて噛みしめている。そして私たちの好奇心は、まだ四月三〇日の路上に踏みしだかれたままである。

■解放までの活動は、救援会Blogにて（http://mayday2006.jugem.jp/）

（いちむら・しげかず、「自由と生存のメーデー06実行委員会」）